



長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766

瓢箪池の水ってどこから流れてくるの？

学校敷地内にある池の水はいつたい何処から流れてくるのか疑問に思った大町北小4年生が、水路を辿りながら源流を訪ねたいと荒井今朝一教育長に相談してくれました。

そこで、水路の歴史や先人の苦勞した様子などを荒井教育長が詳しく説明してくれるのに加えて、網の目のように巧みに配水されている大町市の水路の仕組みについて水土里ネットで説明することになりました。

秋も深まった11月5日、大町北小の玄関に集合し、まずは小学校から歩いて5分ほどの場所にある、ひょうたん池に流れ込む小さな水路が大町新堰という大きな水路から分水される水門を見学し、その後2台のバスに分乗して大町新堰に沿って上流に進み要所を見学することになりました。

まずは、大町市の水路の歴史で必ず登場する大町新堰と昭和電工青木湖導水路が交差し、冷たい水と暖かい水を

交換している様子を見学、大きなトンネルで青木湖から温かな水を市内に配っているという説明に皆驚きの声が上がリ、次の大町新堰が鹿島川を横断する施設では、実際に沈砂池の土砂払い作業を見学して、普段なかなか見ることが出来ない水門操作などを興味深く見入っていました。



熱心に耳を傾けている生徒たち

そして、先人の苦勞が忍ばれる日向山掘り割り部の見学では、紅葉の中を散策し、途中猿の群れや2匹のカモシカの歓迎を受け、自然の中での貴重な体験に一同大感激でした。

次に、見学の後はいよいよ目標地点の源流となる一級河川籠川から大町新堰取水する寄沢頭首工の見学です。今回はまさに堰堤基礎の補強工事真っ最中で、これも普段ではなかなか経験できない施工業者の傅刀組担当者から工事の様子など説明を受ける事ができ、国定公園内の迫力ある大自然と、人間の知恵を絞った人工構造物とのコラボレーションに子ども達は目を輝かせていました。

最後に、帰りのバスの中で北アルプスの雪解け水が蕩々と流れ、多くの人達が恩恵を受けていることを理解し、これからも汚すことなく大切に守って行つてほしいとお話をしました。

案山子コンテスト
作品募集中

ふれあいイベントに合わせて今年も案山子コンテストを行います。今回で3回目となるこのコンテストですが、前回はふれあいイベント参加者の投票により優秀作品を選考した後、より多くの皆さんに見ていただこうと、作品

全てを大町市役所正面通路に移動して展示しました。

展示当初は突然現れた案山子の意味が分からず不思議がる皆さんも多かった様に思われますが、次第に趣旨も伝わり、懐かしいという声が続々と聞かれました。報道の取材も受けるなど、用水路を守るといふことの啓発に一役買ってくれたと思います。

そこで、今年もさらに多くの作品が集まり、賑やかに展示することで農業用水がかんがい以外に地域用水として幅広く利用されていることを啓発する機会としたいと考えておりますので、昔ながらの案山子、時代を象徴した作品など題材は自由ですので、是非多く出品頂きますようお願い致します。

なお、応募方法などはふれあいイベント「土・人・水」の募集チラシ、広報おおまちなどでお知らせします。



イベント会場に展示

農家減少に伴う維持管理

当協議会では、用水がかんがい以外の消火、流雪、生活、環境などに幅広く利用されていることから、この大切な用水を大切に守っていきたく、農家、非農家問わず各戸に啓発活動を展開しているところです。

しかし、現状では用水はかんがいをするために無くてはならないものであることから、慣例で各農家組合等の皆さんが春と秋の2回水路清掃を行い十分な水量が流れる断面を確保し、春から秋にかけてかんがいの期間中には、農地に沿った畦や道路路肩の草を隣接した農家の皆さんが草刈を行い水路の溢水を防いだり、流れを良くするため維持管理していただいています。

これは、地域によっては川普請、川ざらいなどとも呼ばれ、農地が広がる日本各地で行われる正にボランティアであり伝統的な行事となつて引き継がれてきました。

しかし、こう言った用水の維持管理作業も、「田を作るには欠かせない水だから」、また、「自分の農地に接した水路だから」、「自分たちが守らなくては」という農家の強い意識から続けられてきたと考えられますが、農家の後継者不足や国の施策変更などによって農業に対する意欲が薄れ、集落営農組織へ

の農地の貸し付けが多く行われているなど、近年では農地を所有しているものの水路の維持管理も借り手に一切任せていると言うような意識に大きく変わりつつあります。

そこで、当協議会でもこのような実状に危機感を持ち、北アルプスから流れ出た豊富な水が、碁盤の目のように張り巡らされた水路によって隈無く配られているのはこの地域の大きな特徴であり、住民の宝であることをさらに啓発し、将来担い手不足などから維持管理が滞り、水の流れが悪くならないように維持管理の大切さを訴えていきますので、用水路に目を向け、維持管理活動にご理解、御協力をお願いします。



水路維持管理活動に御協力を

田植え体験のお手伝い



昭和40年代までの田植えと言えば、家のお父さんは朝から田植え杵(回し杵、田植え定規)を転がし、家のお婆ちゃん近所のおばさんと苗代で苗を取り、お母さんは近所の奥さん達と大勢で田植えをすると言うように分担されてきました。

今回、近頃ではまず見る機会が無くなった杵転がしを大町西小五年担任の栗林先生が行いました。話を伺うと例年行った目印が付いたロープに沿って田植えする方法より昔ながらの方法で田植えをしたいと教頭先生に相談したところ、田植え杵が保管されていると聞き引つ張り出したそうです。

さて、田植えが始まると碁盤の目の様に印がついた田んぼに子ども達は慣れない手つきでオラガモチの苗を植えていきましたが、そんな時頼りになるのが家で植え直しのお手伝いをしていく子ども達で、一躍半プロとなつて初めての子ども達に手ほどきをし、あつという間に整然とした機械植えの田んぼにも引けを取らない?見事な水田風景となりました。

そして、昔を思い出しながら懐かしい気持ちにさせてもらった田植えでしたが、杵の目の間隔を見ると昔は凄く

狭い間隔で田植えをしたもので、さらにそれを全部手植えで行ったという当時から、大変な作業に従事された方々にあらためて尊敬の念を覚えしました。



杵目の印を踏まないように...

川ばたの薬草紹介
ウツボグサ(夏枯草)

花は6〜7月頃に茎頂に紫色の唇形花が穂状につく、花は咲いたあとすぐ枯れドライフラワーのように乾くが、なお存在を主張し続ける。この穂が薬用部分である。

消炎性の利尿剤として肝臓炎、膀胱炎、るいれきなどに効果があるとされる。タンニンが多いので長時間煎じたり、長期連用すると胃が荒れたり便秘傾向になることがある。

内服の場合、煎じる時間は5〜10分程度にとどめておいたほうがよい。

野口堰(のぐちせぎ)に沿って



野口堰上流(中花見地区)

野口堰は、猫鼻の下流で鹿島川から水を取り入れ、野口と高根の集落を灌がいています。野口堰がいつごろ開かれたのか明らかではありませんが、上流から中流にかけては、わずかの間隔を隔てて越荒沢堰から別れた御所川堰(こしよがわせぎ)と並行して流れています。御所川堰は、仁科氏が館を構えていた現在の天正寺の位置へ鹿島川から水を引くために整備したもので、地形や水路の形態などから野口堰と同じころ開かれたのではないかと考えられます。

猫鼻から下流五キロメートルほどの間は、鹿島川に沿って一直線に流れ下り、野口集落の北側で東堰と西堰、久保の払堰の三本に別れます。西堰は野口の集落内を灌がいた後、高根集落

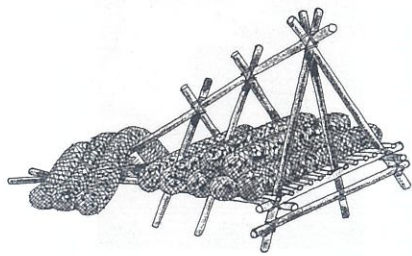
の中堰に合流し灌がいや生活に利用され、東堰は長吉堰に合流して王子神社に向かい市街地の生活に利用され、流末は農具川に合流しています。三本に別れた少し下流では、以前、冬期間を中心に東堰と西堰に水量を補給するため冬水堰が、鹿島川から引かれていました。冬期間、積雪などのために野口堰が止まっても生活用水に困らないために、集落からあまり遠くない場所に、別の取水口を整備したものと考えられています。しかし、古くは、現在の冬水堰の取り入れが元来の野口堰の取水口であったものを、集落の発展に伴って水量の増加を図る目的で上流の猫鼻付近に、新たな取水口を求めた可能性も否定できません。

野口堰は、取水口が集落から遠く離れた上流にあり、人家のない原野を長距離にわたって導水していますので、用水堰の維持管理が大変でした。江戸時代、上流域は大沢寺の寺領内でしたので、年貢を払って草刈り場などに使用しながら水路の確保を図り、春と秋には集落挙げて「水揚げの普請」を行ってきました。取水口のある猫鼻周辺は、川幅が狭く河床が高いためにひんぱんに鹿島川が氾濫し、繰り返し芝土手や石積みなどの川除普請(かわよけ

ふしん)を行う必要もありました。さらに取水口の上流には大町、借馬から社北部までふくめた八集落の幹線水路である越荒沢堰の取水口があり、対岸には源汲中堰の取水口がありますので、取水状況によっては、水争いが起きかねませんでした。そのために八集落と野口の間では、大聖牛二基分の取水が約束されていたと伝えられています。

現在は、コンクリート水路に改修されて野口に至るまでの間に中花見や二ツ屋、花見の水田地帯へ分水し、途中、立体交差する大町新堰とは相互に水量の補給が可能な構造になっており、集落の上流では、東堰と西堰へ耕作期に合わせて昭和電工の導水路から分水が行われるなど効率の高い水利運用を実現しています。

野口堰の流れをたどりながら猫鼻周辺の林間などを散策し、先人たちの苦労の足跡に想いを巡らしていただければ幸いです。(文責 荒井今朝一)



大聖牛(だいせいぎゅう)

ふれあいイベント「土・人・水」
案山子コンテスト
参加者と作品募集

恒例になった、ふれあいイベントは、今年で十四回目となりますが、昨年同様、越荒沢堰親水広場周辺の雑草取り、子どもを中心とした魚のつかみ取り、用水路への魚の放流などを行います。また、当日は親水広場で「案山子コンテスト」を行います。出展作品を募集しますので、左記事務局までお問い合わせください。

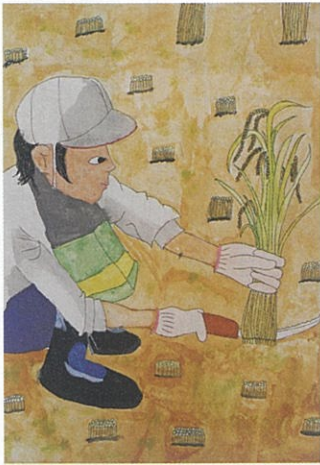
なお、当日は昼食(おにぎり)とお茶を用意します。

- ◆主催 水土里ネットおおまち
- ◆日時 八月二十四日(土) 午前八時開会 正午終了予定
- ◆会場 平小熊原 越荒沢堰親水広場
- ◆会場 水土里ネットおおまち (大町市土地改良区)
- TEL: 221-5542
- E-mail midori-net.omachi@cres.ocn.ne.jp
- http://www.midorinet-omachi.jp/

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2012

大町北小学校5年生が、総合学習で取り組んだ米作りを通して体験した農作業の様子を、それぞれが力強いタッチで表現してくれました。米作り体験を通じて感じた用水の大切さをみんなが理解して、これからも大事に守っていくという意識が生まれたことを期待しています。

寄せられた作品は水土里ネットおおまち地域用水対策協議会で審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。(敬称略)



会長賞

「楽しかった稲刈り」

宮澤 里緒
(大町北小5年3組)



理事長賞

「稲刈りをしている自分」

北澤 祐人
(大町北小5年2組)

入 選(大町北小5年年生)



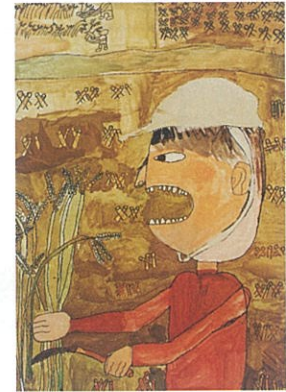
「みんなでがんばったはぜかけ」

西澤 唯



「豊作うれしいな」

畠山 小雪



「いねかり」

菅 信博



「むずかしかったけど楽しかったいねかり」

長谷尾 彩華



「苦労した稲刈り」

大塚 美月



「がんばった稲刈り」

高橋 萌